



覃思

第69号 (令和7年度)

大心会

目次

1. 巻頭言……………p.1
2. 三行短信……………p.3
3. 令和6年度学生支援事業……………p.4
4. 在校生だより……………p.5
5. 大心会へのご寄附について……………p.7
6. 連絡板……………p.8
7. 広島大学心理学教室メンバー ……p.9
8. 令和6年度広島大学
学位取得者一覧 ……p.10
9. 令和6年度修士論文題目一覧 ……p.11
10. 令和6年度卒業論文題目一覧 ……p.12
11. 会報 ……p.13
12. 大心会役員 ……p.15

巻頭言

見えない学習の壁を照らす —教育心理学研究室での31年—

湯澤 正通

「この子は、どうしてこの問題が分からないのだろう。」
学習塾で子どもに勉強を教えていたとき、ふと浮かんだこの問いが、私の研究人生の出発点でした。

1995年に広島大学心理学教室に着任して以来、31年間、幼児から青年期までの認知発達と学習を研究してきました。とりわけ、学習に困難を抱える子どもたちが直面する、外からは見えにくい「壁」と向き合ってきました。その壁を少しでも明らかにしたいという思いから、試行錯誤を重ねてきました。

学生時代から研究者としての歩みの中で、心理学の理論や研究は大きく発展してきました。行動主義心理学、認知心理学、状況主義心理学、そしてピアジェやヴィゴツキーの理論など、さまざまな考え方を学んできました。これらの理論は、それぞれ異なる側面から、子どもの学習や発達を説明してくれます。

たとえば、子どもは褒められることで意欲的に学習します。一方で、認知の仕組みを理解しなければ、学習のつまずきの本当の理由は見えてきません。また、子どもは周囲の環境や人との関わりの中で学び、成長していきます。

こうした理論は、多様な子どもたちの「見えない壁」を照らす、それぞれ異なる光だと感じるようになりました。子どもの個性や状況に応じて光の当て方を変え、見えない部分も想像しながら、壁を乗り越える方法を考えることが大切だと気づいたのです。

広島大学で研究する大きな利点は、附属学校や地域の学校と連携し、教育現場と密接につながれる点にあります。ここ15年ほどは、ワーキングメモリ理論に基づき、発達障害などにより学習に困難を抱える子どもたちのアセスメントと支援に取り組んできました。また、小学校英語の学習を工夫し、英語の音声知覚が苦手な日本の子どもたちを支援する研究も行ってきました。

この31年間で、教育を取り巻く環境は大きく変化しました。新型コロナウイルスによる行動制限は終わりましたが、その影響は今も続いています。不登校の子どもは急増し、「発達障害」とされる子どもの数も増えています。学校現場では、その対応に苦慮しているのが現状です。一方で、近年のAI技術の進歩は、子どもたちが学習の壁を乗り越えるための新たな可能性を示しています。教育心理学の研究は、こうした現場の課題解決に貢献できると、私は信じています。

心理学教室の研究室を、基礎研究と臨床研究に分けると、教育心理学研究室は基礎研究に位置づけられます。しかし、私自身の研究は、実際には臨床に近い性格を持っています。学習に困難を抱える子どもたちの「見えない壁」を明らかにし、その壁を理解し、子どもと共に乗り越える方法を探る活動を続けています。

近年、岡山に児童発達支援施設を開設しました。そこでは、発達や学習に遅れが見られる子どもたちを支援しています。利用している小学生の多くは不登校で、読み書きに時間がかかり、疲れてしまい、学校に行くこと自体がつらくなっています。しかし、AIを活用して一緒に読み書きを進めてみると、実は年齢相応、あるいはそれ以上の力を持っていることが分かる場合もあります。AIを用いれば、子どもの興味に合わせた教材を作ることもできます。現在の教育で重視されている「個別最適な学び」は、心理学の研究成果を応用することで、現実のものになると実感しています。

同窓会報『覃思』を通じて、心理学教室の卒業生の皆様が、それぞれの場所で活躍されていることを知り、大きな励みを受けてきました。心理学を学んだ者として、社会に貢献されている姿を誇りに思います。

最後になりましたが、31年間にわたり温かく支えてくださった心理学教室の先生方、スタッフの皆様、同僚の方々、そして研究に協力してくださった多くの子どもたち、保護者の皆様、教育現場の先生方に、心より感謝申し上げます。心理学教室のさらなる発展と、大心会の皆様のご健勝とご活躍を、心からお祈りしております。

三行短 信

三行短 信では、会員の皆様の近況報告（60字程度）を掲載しております。広島大学心理学教室のHP（大心会のメニュー）からも随時、ご寄稿を受け付けております。皆様の近況をぜひご寄稿ください。

埼玉 県

仲井（三河尻） 裕美（平25）

うっかりしてたら苗字が変わり関東進出してました。人生何があるかわかりませんね。現在は大学入学前教育に関わる仕事をしていますのでお心当たりのある方は是非ご一報を～

岡山 県

西村 裕樹（平6）

児相に戻って早3年。今更ですが結構ハードです。それでもまだ何とか前を向いて歩けてるのはやっぱり…それなりに嫌いじゃないからだと思います。少し字余り（^^）

広島 県

藤沢 敏幸（修昭50）

県精神保健協会表彰を受け、学会は名誉会員になり、無料参加できるようになりました。高齢者になった証拠です。

宮谷 真人（昭55）

「〇〇を1か月お使いいただいた結果がこのお写真です。」

男性と女性が声を合わせて「え～～っ！」。

久しく聞くことのなかったラジオを、最近は通勤の車の中でニヤニヤしながら聞いています。

安部 主晃（修平24）

双子が3歳になり、家には小さな怪獣が2匹（人）です。育児が上手い人などいないのだと自分に言い聞かせながら過ごしています。

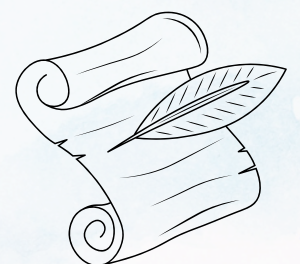
鳥取 県

岡崎 雄二（昭53）

7月に古希を迎えました。

三つの願い(ドラム教室、クルーズ、芝桜)進行中

酷暑で芝桜が茶色に変色中



令和6年度 学生支援事業報告

学部生学会大会参加支援

学部4年生の吉川 康太さん（発達心理学研究室）が大心会の学会大会参加支援を受けて、

第32回日本青年心理学会（2024年11月9日～10日）

に参加しました！

英文校閲支援

博士課程前期2年の伊藤 知也さん（臨床心理学研究室）が大心会の英文校閲支援により、投稿論文の英文校閲を利用し、以下の論文が学会誌に掲載されました！

論文名：伊藤知也・尾形明子 (2024). 会食恐怖に関する研究の動向と展望
不安症研究, 16, 38-47.

学生の研究活動への支援を賜り、ありがとうございました。



在校生だより

在校生：博士課程後期1年の伊藤知也さん（臨床心理学研究室）

昨年度（2024年度）の英文校閲支援を受けて

広島大学大学院人間社会科学研究所博士課程後期1年

伊藤 知也

私は現在、尾形明子教授の研究室に所属しており、「会食恐怖」をテーマに研究を行っています。会食恐怖とは、人と一緒に食事をするに対して、不安や恐怖を抱く症状のことです。症状が強い場合には、「給食の時間が苦痛だから学校へ行きたくない」「上司や同僚と一緒に食事をする機会が多そうな就職先は諦める」「友人と食事をするのが怖いから、食事や旅行などの誘いは断る」など、学業や仕事、交友関係などにも支障をきたす可能性のある深刻な症状だと言われています。

近年、テレビや書籍などで取り上げられることも増え、少しずつ会食恐怖の存在についての認知が高まってきていると考えられる一方で、会食恐怖に関する実証的研究はほとんど行われておらず、その症状について、明らかになっていないことが多く存在します。会食恐怖によって生活に困難を感じている方たちに対して、適切な治療や支援を行うためには、実証的研究によって得られた知見を蓄積していくことが必要不可欠です。

今回、英文校閲支援を受け、学会誌に投稿した論文は、会食恐怖に関するこれまでの研究についてレビューを行い、今後、どのような研究が必要なのかについて検討を行った総説・展望論文です。当初は、私自身が会食恐怖の研究を進めていくうえで、先行研究について調べ、研究の構想について検討したことをまとめていたものだったのですが、それを論文として出版することで、会食恐怖研究の発展に少しでも寄与できるのではないかと考え、投稿することを決めました。

本論文を投稿したのは、国内学会誌だったのですが、英文抄録を掲載する必要があり、またその際、英文校閲サービスなどで英語の校閲を受けることが執筆要領で規定されていたため、この度、英文校閲支援を受けさせていただくことにしました。投稿した論文は、査読や改稿のプロセスを受けたうえで、無事採択され、「不安症研究」の16巻1号に掲載されています。今回の支援を受けて学会誌に掲載することができた論文が一人でも多くの読者に読んでもらえることを願うと同時に、私自身、今後も会食恐怖の研究に精進してまいりたいと思います。

この度は、本支援を受けて得られた成果によって、自身の研究における非常に大きな一歩を踏み出すことができたと感じています。この場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。



大心会へのご寄附について

大心会では、令和6年度より会費制から寄附制へと移行しました。学生への支援を目的として、今後も適切な予算運用のもとに活動を進めて参ります。

大心会の活動にご支援いただける方は、下記の口座へお振込みいただきますようお願い申し上げます。

ゆうちょ銀行

口座番号：01310-3-12503

加入者名：大心会

※通信欄にご寄附の旨を記載いただけますと幸いです。

◆過去のご寄附者（50音順）

大心会へのご支援を賜り、誠にありがとうございます。

安藤 幸代 様（昭55卒）

鹿嶋 達哉 様（昭61年卒，平1年修）

上手 由香 様（平15修）

唐川 千秋 様（昭59卒，昭62修）

川本 智映子 様（平25修）

小松 佳乃子 様（平30卒）

中里 直樹 様（平成29博後）

野口 由華 様（平30卒，令2修）

平賀 光美 様（平成13卒，平15修，平18博後）

松岡 弘美 様（平28修）

宮谷 真人 様（昭55卒，昭57修）



連絡板

連絡板では、大心会宛にご連絡いただいた情報を掲載しています（敬称略）。

お悔やみ申し上げます

故 中山 巖（昭和40年卒）	令和 7年 3月	歿
故 吉國 嘉則（昭和42年卒）	令和 7年 7月12日	歿
故 石井 潔（昭和42年卒）		歿
故 浅川 潔司（昭和50年卒）	令和 7年 2月 6日	歿
故 中谷 京子（昭和56年卒）	令和 7年 1月 3日	歿
故 中川 豊美（昭和63年卒）		歿

心理学教室メンバー

講座教員（50音順）

安部	主晃
李	受珉
石田	弓
梅村	比丘
尾形	明子
上手	由香
神原	利宗
清水	寿代
朱	建宏
杉村	和美
杉村	伸一郎
田村	典久
中尾	敬
中島	健一郎
難波	修史
波光	涼風
服巻	豊
平川	真
森田	愛子
山本	一希
湯澤	正通

講座事務

日野	裕美（心理事務室）
山本	佐織（心理図書室）

令和6年度広島大学 博士（心理学）
学位取得者

学位取得おめでとうございます。

鄭 暁琳 幼児の空間参照枠の選好における課題要因の検討



令和6年度 修士論文題目一覧

島田 慶司	ネガティブ感情粒度と感情制御および精神的健康との関連
小川 詩音	誰が組織内での発言をためらい、心理的安全性を低く感じるのか：社会人調査モニターの性別・国籍・障害の有無に着目して
末永 遥和	色相及び色調が味覚と味覚イメージに及ぼす影響
今田 奈緒	過剰適応概念の検討と再考
中谷 友紀	小児における睡眠の量の増加と規則性の強化に重要な生活習慣・家庭環境の検討—母親の生活習慣と光環境に着目して—
立石 杏佳	幼児期における習得動機づけと親のほめ方・叱り方の関連
近信 優衣	保育者のマインドフルネスと幼児の非認知的スキルの関連—保育者—子ども関係の媒介効果—
陳 放	デコラティブピクチャーが数学教材の理解と読み方に及ぼす影響
福島 あかり	少数派留学生への支援についての考察—非東アジア圏出身留学生へのインタビュー調査の分析から—
松浪 美晴	児童生徒における学業不振の予測因子としての社会的時差ぼけ
中川 寛文	実行意図におけるリハーサルは注意力に影響を与えるのか
任 芮瑤	オンライン上の偽・誤情報に対する真偽判断について—信号検出理論に基づく妥当性の検討—
下本 有紀保	解離傾向と過剰適応傾向の時間的相互関係—交差遅延モデルを用いた縦断研究—
那須 郁未	教師効力感のプロファイルとバーンアウトの関連
村上 菜津美	わらべうたの場における子どものありようの検討—リズムの共有体験に着目して—
張 清源	オンラインコミュニケーションが大学生の孤独感に与える影響
小関 佳那子	Child-Adult Relationship Enhancement (CARE) の介入効果の検討
神垣 るな	自己卑下呈示と社交不安傾向に及ぼす文化的離反傾向の調整効果
荒武 聖香	動作法における援助者・被援助者間の「共同体験」の生起に関する検討
伊藤 知也	会食恐怖尺度の作成および信頼性・妥当性の検討

令和6年度 卒業論文題目一覧

小寺 栞南	心のゆとり感と怒り感情および怒り感情制御方略との関連
中嶋 美遥	新旧友人関係における類似性の検討
平田 悠月	間食と精神的健康の関連～食事動機による個人差の検討～
三井 祐菜	自然災害における中間被災者体験の探索的検討—罪悪感に着目して—
玉川 生	トランスジェンダーの子どもを持つ保護者の経験と成長：当事者団体の役割と影響
吉尾 瑞希	日本語の詩歌における韻律と頭韻が感情と美しさの評価に与える影響
福田 春花	青年の進路選択時のきょうだいのとらえ方とアイデンティティプロセスの関連
佐藤 夏帆	女子大学生の大学進学時の自己決定と大学生活の適応 —母親との関係性に着目して—
竹内 萌音	スクールカーストの上位層における心理的負担についての検討
中瀬 美夢	青年期における現在のライフイベントと社会情緒的ウェルビーイングの関係における環境感受性の役割 -Imura(2021)の追試-
近藤 寛華	講義型睡眠教育はどのような大学生に効果があるのか？—行動変容モデルを用いた検討—
藤原 侑馬	大学生における日中のコミュニケーションの量と入眠感の関連
上野 達希	日本語の文字のスタイルが主観的・客観的読みやすさに及ぼす影響
山本 玲佳	表情からの感情知覚におけるジェンダーステレオタイプの影響
吉川 康太	日本の母親の子育て意識や経験に関する探索的検討-アタッチメント理論と文化心理学の視座から-
森脇 美寿希	看護学生におけるセルフ・コンパッションが反すうとバーンアウトに及ぼす影響の検討
岡田 のどか	嘔吐場面における自己効力感尺度の作成
本田 結衣	子育て期にある親の感情との付き合い方に関する検討
萩野 珠菜	人生における困難な体験から自己理解と自己受容の表れと、そこからの学びについての検討 —ロゴセラピーの視点から—
川野 怜亜	要求方略が使用者の印象に与える影響 —使用者に対する期待を操作した検討—
楳生 仁子	時間的コスト量と話し手の発言内容が共同のコミットメント形成に及ぼす影響
松永 龍弥	左右識別能力が新奇な文字習得に及ぼす影響の検討

会報

令和7年度 大心会常任世話人会報告

令和7年度大心会常任世話人会は10月5日（日）10時より12時まで、広島ガーデンパレス「響の間」にて開催された。

1. 出席者（敬称略）

宮谷真人（代表世話人）、吉田弘司、小河修祐、木谷智子、宮城 円（以上、常任世話人）、杉村伸一郎（幹事）、安部主晃（事務局）

2. 報告事項

(1) 大心会の動静：令和7年度の新入会員数は44人、総会員数は2,513人となった。

(2) 事業報告：令和6年度は、①覃思68号発行、②学部生学会大会参加支援、③学生英文校閲支援を行った。

令和7年度は、①覃思69号発行、②学部生学会大会参加支援、③学生英文校閲支援を行う予定。

(3) 決算報告：別掲のとおり

(4) 会員の慶弔：別掲のとおり

(5) 卒業生・修了生の進路状況

3. 議題

予算縮小に伴う対応と今後の運営について、主に以下の点について協議が行われ、心理学教室により承認された。

・予算縮小に伴う対応

会費制の廃止により予算が縮小している。「覃思」の印刷・発送費削減のため、「覃思」の受け取り方法についてのアンケートに未回答の会員に改めて希望を尋ね、メールまたはHPでの閲覧を希望する会員、または回答のなかった会員には「覃思」の発送を取りやめることとした。

・次期役員体制について

- 現役員の任期満了に伴い、次期役員体制について協議を行った。
- 次期代表世話人は宮谷真人氏が引き続き重任することが承認された。
- 次期常任世話人は、中條和光氏、小河修祐氏（重任）、金子紗枝子氏、藤川卓也氏の4名が提案され、承認された。

大心会決算報告

令和6年度（令和6年4月1日～令和7年3月31日）の大心会決算報告は以下の通りである。児玉真樹子氏、松見法男氏の監査を受けている。

収入の部		支出の部	
前年度繰越金	1,202,519	覃思印刷費（800部）	189,057
収入	42,743	通信費	206,070
寄附9件		1) 覃思関係（含発送費）	63,196
		2) 一般通信関係	142,874
預金利息	162	事務・雑費	32,676
R6/4/1	4	学部生学会大会参加支援事業	30,000
R6/10/1	158	学生英文校閲支援	673
		次年度へ繰越	786,948
計	1,245,424	計	1,245,424

大心会基金報告

令和6年度（令和6年4月1日～令和7年3月31日）の大心会基金報告は以下の通りである。児玉真樹子氏、松見法男氏の監査を受けている。

収入の部		支出の部	
前年度繰越	1,541,372		なし
通常会計より組み入れ	0		
利息(R6/4/1)	6		
利息(R6/10/1)	209		
計	1,541,587	計	0

令和7年度大心会役員

代表世話人 宮谷 真人

常任世話人 吉田 弘司
 小河 修祐
 木谷 智子
 宮城 円

監 査 児玉 真樹子
 松見 法男

幹 事 杉村 伸一郎（心理学教室主任）

事 務 局 安部 主晃

覃 思 第69号

令和8年3月発行

編集兼発行人 大心会「覃思」編集委員会

発行所

郵便番号 739-8524

東広島市鏡山1-1-1

広島大学大学院人間社会科学研究科心理学講座内

大 心 会

電話 (082) 424-6775

FAX (082) 424-3481

E-mail psych@hiroshima-u.ac.jp

郵便振替 01310-3-12503

印刷所

株式会社 ニシキプリント

東広島市高屋台2丁目1-12

電話 (082) 434-6954

